

『素敵なお駅をつくる産学協同 八幡前駅プロジェクト』

【同志社中学校・高等学校 中学校校務センターチーフ 古城 郷】

長い間、地域のシンボルとして互いを支え合ってきた叡電 八幡前駅(1928年開業)と本校。地下鉄が延伸し新駅が登場してからは、八幡前駅の通学利用者は今や中・高全生徒の1割(190名前後)にまで減少し、また周辺地域の少子高齢化が進み、総じて八幡前駅からは活気が失われてしまっている。町の人にとっても同志社生にとっても、大切な八幡前駅を自分たちの手でもう一度「素敵なお駅」にしよう。そうして2013年にスタートした産学協同実践が「叡電八幡前駅プロジェクト」だ。

課外の活動として、毎年、中学生から有志を募り、駅の活性化・魅力化をテーマに取り組みを重ねている。これまで、駅ホーム手すりの塗り替え、駅舎の全面改装、安全利用の啓発ポスター掲示、クリスマス装飾やイベントを行っての利用促進や地域一体化への取り組みなどを企画・実現してきた。

基本的な運営スタイルは生徒たちの主体的な活動。生徒達が率先して動かない限り、大人から積極的に手伝わない。“プロジェクトリーダー”は子どもたち。運営にあたる教職員は、あくまでも“世話人”として関与する姿勢を重視する。協同する企業も含めて大人が失敗や限界を恐れず、生徒の発想を信じ、出来るかぎり尊重する。予算や期限・条件などの制限は与えつつ、できるだけ発想が実現するように支援する。

課題のリサーチから始め、地域と駅のあり方や、利用者が抱える課題なども洗い出す。どうしたら駅を安心・安全に利用できるか。子どもや高齢者にとって駅はどうあるべきか。どんな工夫があれば関心を集められるか。短期的なものから長期的なものまでアイデアを検討し、企業に提案し、実践し、告知する(新聞記事にも報道される)。そして評価を受け、さらに練り直し、次のアクションにつなげる。仕事さながらのプロセスを子ども主体で経験することで、中学生たちに「社会と学びがつながる感覚」「自分たちの思いや考えが社会に通用する自信」「社会の一員としてアクションできるシチズンシップ」の獲得を達成している。PBL(Problem Based Learning)として有効である上に、公共交通機関を活用する学びを通して地域貢献につなげていく教育モデルとしても波及効果が見込める。

今回、MM教育支援事業に採択されたことを機に、「八幡前駅プロジェクト」で実現させていく駅の活性化・魅力化に“人や社会、環境にやさしい”という観点を強化し、より貢献度や還元度の高い活動に発展させたいと考える。